

「ワールド・コラボ・フェスタ 2022」を開催しました。▶▶▶▶



▲ステージの様子

今回も来場者とのやり取りなど、賑わいのあるフェスタとなりました。

AIA の出し物

わたしたち AIA は、毎年、特定の国に焦点を当て、その国の文化や我が国との交流関係などを紹介していますが、今回はウクライナを取り上げ、ステージ、ブース展示などを行いました。

◆ステージ

NPO 法人日本ウクライナ協会のメンバーで構成されている「JUCA エンターテイメント」による、ウクライナ音楽に合わせてのパフォーマンスを披露していただきました。ウクライナの民族音楽に欠かせない管楽器「ソピールカ」の演奏や、民族衣装を着たパフォーマーのダンスと歌、アクロヨガパフォーマンスを見せていただきました。客席は満席で、ご覧になった方々からは、「美しかった」、「祖国への思いが伝わってきた」などのお声をいただきました。

◆ブース

ブースでは、ウクライナ紹介のパネル展示、物品販売、ワークショップを行いました。

広大な穀物畑が広がるウクライナでは、国民にとってパンは大切なもので、神からの贈り物だと考えられているそうです。また、民族衣装にも用いられているウクライナの伝統的な刺繍「ヴィンヴァンカ」は 100 種類を超える種類・技法から作られていて、刺繍のパターンは、主に幾何学模様、花柄、動物の 3 種類で地域によって異なり、同じパターンを何度も繰り返し使うのも特徴であるそうです。ブースでは、日本に避難されているウクライナの方々が一つ一つ刺繍を施したバッグなども販売しました。

ワークショップでは、豊橋ウクライナ協会のご協力により、ウクライナの民族装飾芸術を代表する、装飾画の「ペトリキウカ塗り」体験を行いました。ペトリキウカ塗りは、UNESCO 無形文化遺産に登録されています。現地の動植物を元にした、花などの自然要素が描かれています。毎回満員で、男女問わず多くの方にご参加いただきました。

NPO 法人日本ウクライナ協会からお借りした様々な展示品もあり、来ていただいた皆様には、ウクライナを身近に感じていただけたと思います。

ご来場いただいた皆様、開催にご協力いただいた皆様に感謝申し上げますとともに、このイベントに参加することにより、少しでも地域のことや世界のことについて興味をもっていただき、自分にできることは何かを考える機会になったのであれば幸いです。



▲JUCA エンターテイメントのパフォーマンス▼



▲アクロヨガパフォーマンス



▲ソピールカ演奏



▲ヴィンヴァンカ（幾何学模様）



▲ペトリキウカ塗り体験

令和4年度国際交流推進功労者表彰式



11月16日(水)、令和4年度国際交流推進功労者表彰式を、あいち国際プラザで行いました。これは、多年にわたり国際交流の推進に尽力された方々を表彰することにより、国際交流の進展に寄与することを目的としているものです。38回目の本年度は、下表のとおり個人の部1名、団体の部6団体を表彰させていただきました。

受賞者の皆様、おめでとうございます。今後のさらなるご活躍を期待しています。



▲本年度の受賞者の皆様と神田会長

個人の部

(敬称略)

氏名(住所)	主な功労
はのち せいこ 羽後 静子 (春日井市)	平成20年に「SALVIFIC(中部・日比助けあいネットワーク)」を設立し、県内に在住するフィリピン人女性や混血児の置かれた状況を知ってもらう活動を行っている。 また、日比混血児劇団の春日井公演受け入れのために尽力した。さらに、カナダ・ケローナ市の市民団体などとの交流やシンガポール国立大学の学生とオンライン交流を行うなど、地域の国際交流の推進に貢献した。

団体の部

(50音順)

名称(所在地)	主な功労
あいちけんりつかりやきたこうとうがっこう 愛知県立刈谷北高等学校 (刈谷市)	平成24年にカナダの学校と、平成27年には韓国、オーストラリアの学校と姉妹校となり、以後、学生の交流を行っている。 また、地元小学校への出前授業及びタイの学校とのオンライン交流を実施するなど、地域の国際交流の推進に貢献した。
えいちえすしーびい H S C V (碧南市)	平成24年の設立以来、碧南市のイベントにおいて姉妹都市(エドモンズ市等)を積極的にPRし、実際の交流の際にも受入(ホームステイ)や日本文化の紹介、記念品の製作・寄贈を行うなど、姉妹都市との交流・発展に尽力している。 また、在住外国人との交流イベントを行うなど、地域の国際交流の推進に貢献した。
がまごおりこくさいこうりゅうきょうかい 蒲郡国際交流協会 たぶんかきょうせいぶかい 多文化共生部会 (蒲郡市)	平成4年の協会設立と同時に日本語教室を開設し、現在では蒲郡市内で3つの日本語教室を運営している。教室では、日本語を教える以外にも、生活の相談にのったり、文化交流等の活動を行っている。 また、蒲郡市日本語スピーチコンテストを毎年開催するなど地域の国際交流の推進に貢献した。
こくさいこうりゅう 国際交流さくら (新城市)	平成18年の設立以来、市内在住外国人への奥三河の観光名所の案内や姉妹都市等からの来訪者への茶華道体験などの交流を行っている。 また、国際理解のための講座の開催、市内児童福祉施設等への米国人学生訪問、英語版鳳来寺山ガイドの作成など、地域の国際交流の推進に貢献した。
なごやにちいきょうかい 名古屋日伊協会 (名古屋市)	昭和53年の設立以来、イタリア文化・芸術に関する講演会や音楽会、ワイン試飲会、映画上映会の開催のほか、イタリア語教室を開催し、イタリア文化の普及活動を行っている。 また、令和3年には名古屋市と連携し、名古屋・トリノ姉妹都市提携15周年を記念した「Nagoya × Torino」グローバル交流 with5G プロジェクトを開催するなどイタリアとの国際交流の推進に貢献した。
いっぱんしゃだんほうじん 一般社団法人 ラオス子供の未来 (田原市)	平成23年からラオスにおける小学校3校の校舎の建設支援を行ったほか、うち1校については図書設備の寄贈を行った。 また、平成28年からは高校に通学する寮生の支援を行うなど、ラオス現地での教育支援を継続し、ラオスとの国際交流の推進に貢献した。

外国人相談担当者研修会を終えて



当協会では、毎年、市町村や市町国際交流協会等で外国人相談に携わる方々向けの研修会を開催しています。今年度は、11月4日に「難民・避難民」をテーマとし、11月18日は「技能実習制度」をテーマとして研修会を行いました。研修会では、制度や支援について学ぶだけでなく、グループワークを取り入れ、支援のあり方を考えたり、情報を共有したりして、参加者から様々な意見や感想が出されました。

1日目の「難民・避難民」の講義では、名古屋出入国在留管理局の担当者から『難民ビザ』という言葉をよく耳にするが、実際にはそのような在留資格は存在せず、難民申請中の人が、結果が出るまでの間に取得する『特定活動』である可能性が高いので、必ずパスポートの記載事項も確認するように」とアドバイスいただきました。また、難民事業本部関西支部の担当者からは、日本が難民を受け入れられるようになった背景や歴史を学び、グループワークでは「難民として全く知らない国に家族で暮らすことになった」と想定して、ディスカッションが行われました。

2日目は外国人技能実習機構より、「技能実習生に関するニュースはあまり良いイメージがないが、実際は満足して母国に帰国する方も多い」という報告がありました。また、名古屋出入国在留管理局の担当者からは、技能実習生が実習後に変更することが多い「特定技能」の在留資格についての説明があり、ハローワークなどを通じて就職活動ができるなど、技能実習より自由に就職先を選択できることを学びました。今年度の研修会は対面で開催することができ、グループワークで活発な意見交換ができたことが好評で、今後も取り入れていきたいと思えます。



▲グループワークの様子



▲講義の様子

「令和4年度 日本語ボランティア入門講座」を開催しました ▶

毎年開催している日本語ボランティア入門講座。今年度は、8月4日（木）～10月6日（木）にかけて、2年ぶりに対面で開催しました。久しぶりの対面開催にもかかわらず、定員の2倍以上の方からお申込みいただき、22名の方にご参加いただきました。

全8回の講座では、大学や日本語教育機関などで活動されている方々を講師に迎え、受講者に、愛知県の外国人住民の状況・日本語ボランティアの役割といったベーシックな内容から、県内日本語教室の紹介・活動案の作成など、実践的な内容までを、講義やワークショップを通して学んでいただきました。また、講座の一環として、県内の日本語教室の見学もしていただき、最終日には、見学の感想を共有し、今後自分たちにできることについて話し合っていました。

ところで、皆さんは「日本語教室」と聞くと、どんなイメージを持ちますか？ 教室によって活動内容は様々ですが、今回の講座では、特に対話型／行動体験型の活動について取り上げました。講座の第6・7回では、受講者の皆さんがグループごとに行動体験型の活動案を作成し、作成後は、他のグループの活動案を見て、コメント・質問をする時間を設けました。写真にもあるように、「相撲」や「防災」をテーマにしたものなど、どのグループからも楽しく面白いアイデアが出されました。

受講者からは、「ボランティアの必要性を改めて感じた」「対話型・体験型に、より目を向けられるようになったことが良かった」「ワークなどの体験もできて、良い時間だった」「教室見学に行って、その様子をシェアできて良かった」などの声をいただきました。

新型コロナウイルスの影響で、地域日本語教室の状況はコロナ前から変わりましたが、日々た

くさんのボランティアの方が懸命に活動されています。また、日本への入国規制が緩和され、徐々に外国人住民も増えていくと予想される中、ますます地域の日本語ボランティアが必要とされます。受講者の皆さんには、ぜひ講座や教室見学で学んだことを活かし、地域の日本語教室でご活躍いただければと思います！

▼愛知県内には、およそ240の日本語教室があります。

当協会ウェブサイトにも、日本語教室検索ページを設けておりますので、ぜひ参考にしてください！

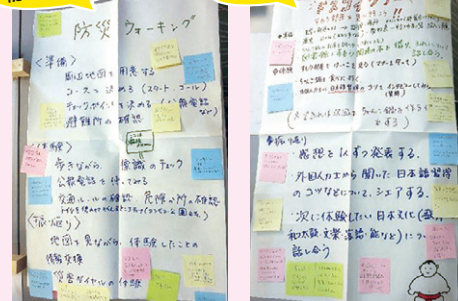
<http://www2.aia.pref.aichi.jp/aiawp/school/>

▼他のグループのテーブルに行って、活動案を見て回る受講者（講座第7回）



防災ウォーキング

ドスコイツアー



▲行動体験型の活動案（一部抜粋）